2022.12.6

社会学部　学部基幹科目（2019年度以降第1学年次入学者適用）

区分	科目名	履修開始セメスター	1 社会学または公共政策学に関する幅広い知見を有し、共生社会に貢献することができる	2 自己を見つめる力、自分の考えを伝え他者の考えを理解する力、他者を尊重しともに行動する力をもっている	3 社会の一員として求められる総合的な教養を身につけている	4 現代社会の諸課題に積極的に取り組むために必要な専門性を備えている	科目概要
学部基幹	現代社会論	2	◎		○		明治期の「近代化」をも視野に入れながら、日本社会がどのように形作られ、変化してきたかを論じる。特に高度経済成長期およびそれ以降の日本社会の変化を、産業構造の変化、都市化、家族の変化という三つの側面を中心に考察し、近代、現代の社会の特徴や傾向、問題性などを理解する。
	公共性と社会	1	◎	○	○		公共とは何かについて、日常生活、地域社会、企業・労働、福祉、教育の各領域で現状を紹介する。行政だけではなく市民を主体とする公共性がテーマになる。「自助・共助・公助」や「協働」の意味するところを理解し、その内容と方向性を検討する。
	現代思想	1		○	◎	○	前世紀初頭から現在にかけての領域横断的な、すなわち既成学問分野の内部で完結することのない、現代社会の重要なテーマに対しての一連の知的挑戦を扱う。たとえば、「自然」「生命」「ジェンダー」「理性」「近代」等といったテーマが考えられよう。
	環境社会システム論	1	◎	○			環境負荷の低減を目指す社会システムとしての、循環型社会、低炭素社会の概念やその成り立ちを紹介する。また資源やエネルギーに関わる現代社会の課題を認識し、これからの社会を担う一員として相互議論し、共生社会の方向性を検討する。
	現代日本社会史	2	○		○	◎	近現代日本の社会はどのようにして形成されたのか、なぜ日本独特の問題が生じてくるのかを解明する。また、その問題発生の原因・要因を探ることによって、問題解決の方向性を示唆し、今日の日本の歴史的位置を明示する。
	現代市民論	2	○		○	◎	「市民活動」（「市民セクター」による活動）がなぜ今注目されるのか、「政府セクター」や「市場セクター」との比較から、また近現代史の振り返りのなかから、その理由を理論的・歴史的に解き明かすことを通じて、21世紀の社会のありかたを考える。
	20世紀の歴史	1			◎		第一次世界大戦から冷戦構造の終わりまでの現代史を通史として学習し、社会学の理解にとって必須である歴史的文脈についての知見を得る。政治史を中心に社会史や文化史にも言及し、広く現代史の文脈を理解して考察することのできる教養を得る。

2022.12.6

現代社会学科　専門科目（2019年度以降第1学年次入学者適用カリキュラム）

区分	科目名	履修開始セメスター	1 社会学の基礎的知識を修得したうえで、変転する現代社会におけるさまざまな社会現象や社会問題に対して、自己を見失わず常識にとらわれない柔軟な見方ができる	2 1. グローバル化、多文化化する世界の中で、異なる文化や宗教に対して開かれた態度をとり、地域の課題に対して的確な判断が下せる	3 差別やマイノリティの問題、さまざまな社会問題について幅広い知見を有し、共生社会の実現に寄与する力を備えている	4 現代社会において必要とされる情報リテラシーを身につけ、情報の賢明な受け手としてだけではなく、送り手としてのコミュニケーション能力も有している	科目概要
学科基礎	現代社会学入門ゼミ	1	◎	○	○	○	現代社会学科の教育内容を理解するとともに，大学で自律的に学ぶことを見通し，基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索，読解及び内容の要約，レジュメやレポートの記述，プレゼンテーション等の発表，ディスカッション等）を習得する。
	社会学史（古典）	3	◎	○	○		19世紀前半、産業革命とフランス革命という「二重の革命」に晒されて未来が不可視な激動の時代に生まれた社会学の成立と展開を扱う。「社会学史（古典）」では、オーギュスト・コントから始まる社会学の歴史を、その前史を踏まえつつ、産業社会の展開という現実の社会的変化とリンクさせて論じる。およそ20世紀中期のタルコット・パーソンズまでを概観する。
	社会学史（現代）	4	◎	○	○		産業社会の展開のなかで成立・発展してきた社会学は、その産業社会の変質に伴って多様な学説を生み出すこととなる。「社会学史（現代）」では、1960年代の高度経済成長、政治的・社会的動乱の時代を経て現在に至るまでの社会学の歩みを概観する。「社会学史（古典）」以上に現代社会の特質や問題点に肉薄する科目となろう。
	現代社会学講読	3	◎			○	この授業では、現代社会における特定のテーマに関して、文献講読を行う。各回、担当者（個人もしくは数人のグループ）がテキストの該当部分について内容等を報告する。担当者は、A4用紙2枚程度でレジュメを作成し、クラス全員に配布する。レジュメには、(1)文献の重要論点および筆者の主張、(2)それに対する報告者の意見、(3)補足情報等を含める。レジュメにもとづく報告の後、全員で議論する。一通りテキスト講読が終了したら、簡単な授業内プレゼンテーションを行う。報告者は関心のあるテーマについて調べ、自らの見解をまとめた資料を配布し、その内容を発表する。それをふまえて、全体で討論する。
	社会学原論	3	◎				社会学とはどのような学問なのかを理解することがこの科目の目的であるが、それに先だって、社会学において社会がどのように捉えられているのかについての理解が必要となる。これについては、社会が個人の行為から成り立つとする立場（方法論的個人主義）や社会を諸個人を超えた独自の存在とする立場（方法論的集合主義）、また社会が客観的に存在すると考える立場や社会が言語・言説などの意味的なものによって構築されるとする立場（構築主義）など、様々な立場がある。 これらの考え方のいくつかを説明することを通して、社会学についての理解を深める。
	社会思想史	3	◎		○	○	社会思想史の視点から見た時、「いま」の近現代社会はどのように見えてくるのかについて論じる。近代西欧と近代日本に影響を与えた思想について考え、また近代社会や現代社会を考えていく。特に近代日本では、具体的に代表的な思想家（１人～数人）の視点に焦点を当てる。以上から、「いま」に生きるわたしたちに何が問われているのかを考えてもらうことがねらいである。
	社会心理学	3	◎	○	○		社会心理学は、人間の思い、感情、行動が他人という存在によって異なる形で現れることを究明するための科学的アプローチである。人は個人として社会を生きるとともに、他者との社会的関係やその関係を規定する様々な規範・文化との関係で、実際の行動を起こしている。授業を通して、社会学と心理学の境界科学としての社会心理学を理解することに努める。そのために、私たちが日常生活の中で普段、疑問に思うような身近な「素材」を研究の対象とする。身近な物事に対する再考を通じて、社会の中に存在する「わたし」の意味を探る。
	家族社会学	3	◎	○	○		個人化やグローバル化が進む現代、「家族」はかつてないほど多様化してきている。本授業では、「近代家族」を鍵概念として、現代家族に起こっている変化の実態を明らかにするとともに，その変化を歴史的，社会的な文脈から読み解いていく。そして、家族がどこへ向かおうとしているのか、家族の過去、現在、未来について考える。
	文化人類学	3	◎	○	○		海外の特定の地域を中心に，そこに住む人々の生活観・価値観を学ぶのがこの授業の趣旨である。今までのフィールド・ワークの成果を踏まえ，視聴覚教材等を用いながら，異文化に対する理解を深めることが目的である。

区分		科目名	履修開始セメスター	1 社会学の基礎的知識を修得したうえで、変転する現代社会におけるさまざまな社会現象や社会問題に対して、自己を見失わず常識にとらわれない柔軟な見方ができる	2 1. グローバル化、多文化化する世界の中で、異なる文化や宗教に対して開かれた態度をとり、地域の課題に対して的確な判断が下せる	3 差別やマイノリティの問題、さまざまな社会問題について幅広い知見を有し、共生社会の実現に寄与する力を備えている	4 現代社会において必要とされる情報リテラシーを身につけ、情報の賢明な受け手としてだけではなく、送り手としてのコミュニケーション能力も有している	科目概要
学科基礎		コミュニケーションと社会	3	◎		○	○	本講義では社会的なコミュニケーションについて、メディアと集合的記憶に焦点をあてて学ぶ。集団や社会全体に共有されている記憶のことを集合的記憶と呼ぶが、近現代において、メディアと集合的記憶とは深くかかわっている。本講義ではポピュラーカルチャーに着目し、それぞれのメディア文化のあり方を検討しつつ、日本社会の集合的記憶のありようについて考える。
		社会調査論１	3	◎			○	まず、社会調査とはどんな活動のことを指すのかを説明し，その中で社会調査を学ぶ上でのいくつかのポイントを解説する。次に、各種の社会調査の歴史を振り返る。様々な調査活動が、幾多の試練に直面しながら、現在の形へと変化を遂げたプロセスをたどることによって、それぞれの調査の社会的な意義と、方法論的な問題点を解説する。最後に、社会調査の諸方法の概略について説明し，典型的な研究例を紹介しながら，個々の方法の特色について学んでいく。ここではそれぞれの方法の意義、面白さ、難しさを紹介していく。社会調査の意義と，様々な方法の概略，倫理的問題点等を説明することが主な目的である。「社会調査論２」が方法論の詳細を学ぶ授業であるのに対して、「社会調査論１」は受講生に「社会調査とはこんな活動である」というイメージを持ってもらうことが主眼になる。
		社会調査論２	4	◎			○	社会調査の方法論を学ぶ授業である。「社会調査論１」よりも専門的な内容になるため、既に「１」を履修済であると理解しやすいが、この「２」から受講することも可能である。一口に社会調査といっても様々なタイプがあり、タイプごとに方法論も異なってくるが、この授業では、様々なタイプの調査に共通する方法論の基本について解説する。社会調査の典型的なプロセスに沿って、各段階を説明していく形の授業になる。すなわち、調査における問題の立て方、仮説の立て方、問題と仮説に対応した調査設計の仕方、調査対象者の抽出方法、調査票の作成方法、調査の実施方法、調査結果の点検・整理の方法等々について順に解説していく。
		現代社会学特殊講義１	3	◎	○	○	○	この授業ではアメリカ、ヨーロッパ、中東、日本、東アジアの各地域における多文化主義政策や排外主義的動向の事例を紹介しながら、複数の民族・人種の多文化共生の可能性（あるいは不可能性）について、受講者とともに議論する。
		現代社会学特殊講義２	4	◎		○		「社会学」という学問は、近代社会の成立によって誕生したが、それは同時に近代社会そのものを相対化する営みでもある。この授業では、社会学理論を通して、私たちが生きている社会の諸問題を考える。とくに、階層／ジェンダー／エスニシティという軸から、日本社会の現状を考察するとともに、その変容の方向性を検討する。 以上を通して、理論の意義を再確認するとともに、社会を批判的に見通す視座を提示する。
		現代社会学外国文献研究１	3	◎				外国語（主として英語）で書かれた社会学関連の文献を講読する。外国語で書かれた専門的なテキストに触れることにより、社会学および隣接諸科学への理解を深め、かつ当該外国語に習熟することに資することをねらいとする。
		現代社会学外国文献研究２	4	◎	○		○	現代社会学科の「学科基礎科目」である。授業テーマに応じた様々な外国語資料（書籍、雑誌記事、新聞、エッセイなど）の読解を通じて、授業テーマそれ自体の理解を深めるとともに、外国語資料の扱い方、読み方を学ぶ。授業形式はメンバーで共通の文献を輪読し、その内容に関する要約や意見を発表し、討論する形式で行われる。
学科専攻	共通	現代社会学ゼミ１	5	◎			○	ゼミの授業テーマについて、各ゼミ生がさらに具体的なテーマを設定し、その内容について文献講読や資料収集を行う。そして、それらを発表し、ゼミ生全員で議論する。
		現代社会学ゼミ２	6	◎			○	ゼミの授業テーマについて、各ゼミ生がさらに具体的なテーマを設定し、その内容について文献講読や資料収集を行う。そして、それらを発表し、ゼミ生全員で議論する。
		現代社会学卒業研究ゼミ１	7	◎			○	卒業リポートの執筆に向けた作業を行う。各ゼミ生が自らの研究テーマを設定し、その研究テーマに関する先行研究のリビューを行い、研究計画をたて、研究を開始する。またそのプロセスを、他のゼミ生に向けて発表し、ゼミ生全員で討論する。

区分		科目名	履修開始セメスター	1 社会学の基礎的知識を修得したうえで、変転する現代社会におけるさまざまな社会現象や社会問題に対して、自己を見失わず常識にとらわれない柔軟な見方ができる	2 1. グローバル化、多文化化する世界の中で、異なる文化や宗教に対して開かれた態度をとり、地域の課題に対して的確な判断が下せる	3 差別やマイノリティの問題、さまざまな社会問題について幅広い知見を有し、共生社会の実現に寄与する力を備えている	4 現代社会において必要とされる情報リテラシーを身につけ、情報の賢明な受け手としてだけではなく、送り手としてのコミュニケーション能力も有している	科目概要
学科専攻	共通	現代社会学卒業研究ゼミ２	8	◎			○	卒業リポートの完成に向けた作業を行う。各ゼミ生が自らの研究テーマに関するリポートを作成し、添削指導を経て、それを完成させ、提出する。またこれらを、他のゼミ生に向けて発表し、ゼミ生全員で討論する。
		卒業リポート	8	◎			○	ゼミ生が自ら問題を提起し、それに答える方法・手順を決め、それを実施する。そしてその研究成果をリポートにまとめて提出する。
	文化・国際コース	文化社会学	3	○	◎	○		社会学における文化概念の変遷を、具体的な歴史および社会の動向とあわせて論ずる。近代におけるフランス革命と啓蒙主義、社会進化論から、20世紀の大きな歴史的流れの中で、社会学が文化をどのように位置づけてきたのかを基礎教養として理解する。その上で、20世紀の大きな社会の変動、例えばナチスの台頭や戦後冷戦構造の中で、文化的現象がどのように変化したのかを、批判的視座から検討する。
		現代文化論	3	◎		○		現代文化の諸側面を採りあげ、現代人がなぜそれを受容するに至ったのか、またその側面は他の諸側面にどのような影響を与えているのかについて考える。例えば、「好きになった人と恋愛して、結婚して、子どもを産んで、幸せな家庭を」というライフスタイルを採りあげるならば、なぜこうしたライフスタイルが受け入れられていったのかを考えるのがこの授業の趣旨である。また、わたしたちがする「～キャラ」という自分に対するラベリングを採りあげるならば、こうした「キャラ」が一体なにをもたらしているのかを考えるのがこの授業の趣旨である。
		消費文化論	3	○			◎	近現代の消費文化について、メディアとのかかわりに焦点を当てながら考えていく。特に戦後日本において映画、テレビ、新聞、漫画等のメディア産業が成長しているが、こうしたメディア／コンテンツとどのようにかかわりながら具体的な消費文化が生成していったのかを検討する。
		社会意識論	3	◎				社会の変化と意識の変化との関連を理解することがこの科目の目的である。具体的には、戦後日本における意識の変化を、若者の意識、性・結婚・家族に関する意識、労働と余暇に関する意識、豊かさに関する意識などのトピックスを取り上げて考察する。さらに、受講生が各自の意識のあり方にも目を向けることができるよう講義を進めたい。
		宗教社会学	3	○	◎	○	○	この授業では、現代社会の「宗教」をめぐるさまざまな現象や問題を取り上げ、グループワークによるアクティブラーニング（主体的・対話的で深い学習）を行う。受講者にとっての身近な体験から、現代世界で話題になっている問題まで、幅広いトピックを扱い、受講者自らが議論し、考える授業を実施する。
		現代宗教論	3	○	◎	○	○	この授業では、〈若者〉、〈祈り〉、〈聖地〉、〈宗教施設〉、〈祭り〉、〈いのち〉という6つのキーワードから、現代世界における宗教の役割について検討する。取り上げる地域は海外から国内まで多地域に及び、キリスト教、仏教、イスラーム、民俗信仰など、幅広い対象を扱う。また、現世利益、死者との交流、修行体験、祭りの国際比較、臨床現場への宗教者の関わりなど、多面的な話題を取り上げる。
		国際社会論	3	○	◎	○		人口移動の歴史は、人間の歴史とほぼ一致する。しかし、近代以降、国民国家が基本的な政治組織となり、世界に広まっていった。国民国家の特徴は、確固とした境界とその内部における人々の均質性である。国家は境界内で物理的暴力を独占するなど主権を持つ。人々は文化を共有し、統治に参加すべき国民となる。近年、グローバル化の拡大に伴い、モノ、金、ヒト、文化・情報の国境を超える移動はますます加速化しているため、国民国家は動揺していると言われる。この講義ではおもに国際人口移動の歴史・現状および各国の移民政策を考察する。
		現代国家論	3	○	◎	○		国家とは何か、その定義の問題から始めて、主権の概念、国家間システム、国民国家とナショナリズム、資本主義経済と福祉国家、さらにはグローバリゼーションと反グローバリズムといったテーマについて論じる。現代社会における国家をめぐるさまざまな論点に論及して、複雑な現実世界に対する見通しを切り開く。
		異文化理解	3	○	◎	○		自己と他者の文化に対して、多様で開かれた視座に立ち、文化の複数性を理解することが目標である。現代世界にはいまだに多くの偏見や差別、例えばヘイトスピーチなどの社会問題が生じており、本講義ではこうした他者の文化に対する不寛容さを題材として、批判的に論ずる。

区分		科目名	履修開始セメスター	1 社会学の基礎的知識を修得したうえで、変転する現代社会におけるさまざまな社会現象や社会問題に対して、自己を見失わず常識にとらわれない柔軟な見方ができる	2 1. グローバル化、多文化化する世界の中で、異なる文化や宗教に対して開かれた態度をとり、地域の課題に対して的確な判断が下せる	3 差別やマイノリティの問題、さまざまな社会問題について幅広い知見を有し、共生社会の実現に寄与する力を備えている	4 現代社会において必要とされる情報リテラシーを身につけ、情報の賢明な受け手としてだけではなく、送り手としてのコミュニケーション能力も有している	科目概要
学科専攻	文化・国際コース	エリアスタディ	3	○	◎	○		この講義では中国における諸民族の形成と生活の実態、現行の少数民族政策などへの考察を通して、民族と国家の関係、国際政治と中国の民族問題の関わり、多民族共存の在り方、近代化と民族文化の共生への理解を深めたい。
		グローバル化論	3	○	◎			グローバル化について歴史的経緯を踏まえて紹介し、グローバル化の弊害を被っている国、地域、人について問題点を指摘する。経済、文化、政治、社会の 4 領域に分けて説明する。また、本講義では地域を基盤とするグローバル化を「グローカル化」と呼び、京都の伝統・文化を生かした産業のグローバルな展開について紹介する。グローカルな展開を可能にするためには、地域社会の人々を主体としながらも地域外の人々（企業、行政、大学および外国の人々等）とのコミュニケーションが活発となることが不可欠となってくるため、グローバル化時代の新たな公共マインドについて検討する。
		文化・国際特殊講義 1	3	○		◎		社会の動向を敏感に反映する青少年に注目し、彼らの社会関係や文化を中心に現代社会を考察する。青少年は、その生き方や考え方が新たな社会を構築すると考えるならば、今後の社会を解読するうえで重要な存在だと言える。本講義では、青少年を社会学的に分析し、社会関係を中心に考察することで、今後の社会について考察することが目的となる。
		文化・国際特殊講義 2	3	○	◎		○	外国の社会を「知る」ことは、より健全な国際関係を築くための礎をつくることである。外国の社会・文化現象の意味合いを考察することで、現代の国際社会に対する理解を深めることに努めたい。このような理解は、国際関係の将来像をより具体的な形で描くためのもっとも強力な武器となる。
		文化・国際特殊講義 3	3	○	◎			現代社会学科の「文化・国際コース」の専攻科目である。異文化を自文化と比較しながら理解すること、また自文化を異文化と比較しながら理解することを通じて、様々な社会現象に対する常識にとらわれない柔軟な見方を養う。
		文化・国際特殊講義 4	3	○	◎			現代社会学科の「文化・国際コース」の専攻科目である。異文化を自文化と比較しながら理解すること、また自文化を異文化と比較しながら理解することを通じて、様々な社会現象に対する常識にとらわれない柔軟な見方を養う。
	共生・臨床社会コース	共生の社会学	3			◎		学生にとって身近な共生の問題を取り上げながら、その問題が生まれてくる背景について、自分自身の問題と社会との関係から、他人の問題と自分自身の問題と社会との関係ついて社会学的に考えることを目的としている。取り上げる問題は、友人関係、恋人同士の関係、親子関係、いじめ、女性・障がい者差別、同和問題などである。
		社会階層論	3	○		◎		本講義は社会的不平等の問題を考える際の、社会学および隣接社会諸科学での基本的な考え方を解説する。まず「結果の不平等」に関わる諸概念を解説する。格差とは何か、貧困とは何か、またそれらはどうすれば測定できるのかを学ぶ。次に「機会の不平等」に関する諸概念を解説する。機会の不平等とは何か、社会階層・社会移動とは何か、そしてそれらはどうすれば測定できるのかについて原理的に考える。その他、不平等・格差に関する様々なトピックを取り上げて論じる。これらのプロセスの中で、データに基づいた不平等の実態に関する分析結果も適宜紹介する。ただし、そこにみられる種々の傾向を単に知ることよりも、どうしてそのようなデータや、分析方法が必要なのかを、不平等問題に関する基本的な考え方と結び付けて理解させるのが趣旨である。
		ジェンダー論	3			◎		現代社会における女性と男性の差（ジェンダー）が私たちの人間関係にどのような影響を与えているのかについて考える。様々な性と愛のかたちを見ながら、私たちのジェンダーに対する意識とジェンダーが社会に与えている影響を映像資料や新聞記事なども使いながら考えることを目的とする。
		マイノリティ論	3	○		◎		若者である受講者自身に「弱者」という意識のない場合、「マイノリティ」と聞くと「どこかの気の毒な人」、と考えてしまうかもしれません。この社会で若者である受講者「わたし」はどのような立場にいるのか、強い立場なのか弱い立場なのか、どうしてそのような立場にいるのか。「マイノリティ」は「自己責任」等の個人の問題として処理されて良いものなのか、どのような仕組み(社会制度)で生み出されてくるのか。講義では若者が置かれた現状を量的・質的データからとらえ直し、そのことが現在、未来にどのように問題を引き起こすのかについて社会学という道具で「わたし」の置かれた情況を考えていきます。

区分		科目名	履修開始セメスター	1 社会学の基礎的知識を修得したうえで、変転する現代社会におけるさまざまな社会現象や社会問題に対して、自己を見失わず常識にとらわれない柔軟な見方ができる	2 1. グローバル化、多文化化する世界の中で、異なる文化や宗教に対して開かれた態度をとり、地域の課題に対して的確な判断が下せる	3 差別やマイノリティの問題、さまざまな社会問題について幅広い知見を有し、共生社会の実現に寄与する力を備えている	4 現代社会において必要とされる情報リテラシーを身につけ、情報の賢明な受け手としてだけではなく、送り手としてのコミュニケーション能力も有している	科目概要
学科専攻	共生・臨床社会コース	臨床社会学	3	○	○	◎		社会の「問題」（を構成する価値観）について理解を深めるとともに、それら「問題」はどのように対処されうるのか、また仮に「問題」を査定しその「改善」や「再生」を図ることができるとすれば、それはどのようにしてかということについて、時事的な題材をとりあげながら考察する。
		社会病理学	3	○		◎		社会的に「異常」「逸脱」とされる出来事（犯罪、少年非行、自死、差別、格差の拡大、社会の混乱など）を「社会病理」と呼ぶことがある。「社会病理学」は、このような現象を社会学的に研究する学問である。この授業では、社会病理学の基本的な学説を講義するが、同時に、具体的な「社会病理」についても考える。もっとも、社会の問題を「病気」にたとえること（「社会病理」という用語を使うこと）への批判もある。授業においては、こうした論点も扱うことになる。
		逸脱行動論	3	○		◎		デュルケムの犯罪社会学をはじめとして、犯罪や非行を中心とした逸脱現象についてさまざまな先行研究や理論を概観します。そのなかで現代社会における逸脱現象の特徴やそれに対する人びとの反作用を学ぶことで、自らの身近な生活の中で新たな逸脱現象がどのように捉えられ、人びとがどのように解釈しているのかを改めて問い直してもらいたいと思います。目的として現代社会における逸脱現象に対する基本的な研究方法について概観します。その後、具体的な犯罪と非行に関する諸理論を中心に紹介し、現代社会における犯罪や非行を理解するための社会学的なアプローチを身につけることが本講義のねらいです。
		家族病理と臨床	3	○	○	◎		本講義では，多様性と複雑さが増す現代社会において，家族問題をどのように捉え，どう対処すればよいのか，臨床社会学的な観点から検討を行う。具体的には、「児童虐待」「アダルトチルドレン」「社会的引きこもり」「ＤＶ］などのテーマに焦点をあて、その発生要因と対応策について，個人・家族・社会の関係から分析，考察を行う。
		学校病理と臨床	3	○		◎		本講義は、教育および学校におけるさまざまな社会現象をとりあげます。特に「学校問題」と呼ばれる現象を中心として、その問題について社会学的に考察します。また教育を社会的事象として捉え、教育現象に対してさまざまな諸要因を視野に入れた複眼的な視点（近代的な教育システムについて理解する。学校問題を客観的・多角的に分析する力を培う。今日の教育が直面する問題や今後の課題について理解し、検討する。）を身につけ、学校問題を考察することを目的とします。
		地域病理と臨床	3	○		◎		近代化に伴う社会問題として、主に「都市」「貧困」「公害」「環境」の問題が注目され、「地域」は社会病理学の研究対象となる。「地域病理」を地域社会を単位として発生する社会病理として定義し、生活空間としての「地域社会」が直面している課題へのアプローチから「地域創生」を考える。地域に生きる「集団」や「ネットワーク」に焦点を合わせ、地域から持ち込まれる（生じる）具体的な問題に対して、新たな解決策を企画検討し、実践可能な介入への策定に取り組む。
		保健医療社会学	3	○		◎		医療社会学における議論のなかから、身近な事項をいくつか学び、医療や身体について改めて考える機会とする。身体の状態の相対性（病気／健康、正常／病理、男／女、生／死）に気づき、また、医療制度の現状および動向を知ることで、自分の日常を見つめ直す視点を養う。
		カウンセリング論	3	○		◎		こころの問題の事例やカウンセリングの理論的背景・臨床・技法などを学ぶことを通して、現代において生じているさまざまなこころの問題についての理解を深める。最終的に、こころの問題を、家族やグループ・社会のなかで捉え返せるようになることを目指す。

区分		科目名	履修開始セメスター	1 社会学の基礎的知識を修得したうえで、変転する現代社会におけるさまざまな社会現象や社会問題に対して、自己を見失わず常識にとらわれない柔軟な見方ができる	2 1. グローバル化、多文化化する世界の中で、異なる文化や宗教に対して開かれた態度をとり、地域の課題に対して的確な判断が下せる	3 差別やマイノリティの問題、さまざまな社会問題について幅広い知見を有し、共生社会の実現に寄与する力を備えている	4 現代社会において必要とされる情報リテラシーを身につけ、情報の賢明な受け手としてだけではなく、送り手としてのコミュニケーション能力も有している	科目概要
学科専攻	共生・臨床社会コース	共生・臨床社会特殊講義１	3	○		◎		最近の非行は理解しにくくなったといわれている。講義では、現代の非行を理解し対応するうえで必要な理論と実践活動について包括的な考察を行っていく。現代の非行にみられる特質やさまざまな非行理論、さらに被害者支援や修復的司法など、少年司法にいたるまでの非行臨床の実態を把握することに努める。非行臨床は、司法・行政・教育・医療・福祉など広範な領域にまたがった活動を要請されている。授業では、具体的な事例研究などを取り入れながら、少年たちへの理解や有効な立ち直りへの道筋を探究することに努めていきたい。ここには問題を抱えた子どものみならず家族や彼らが生活する地域社会への援助、さらには犯罪被害者へのケアも求められており、さまざまな領域・対象への心理的援助の実際と問題点に対する考察が含まれている。
		共生・臨床社会特殊講義２	3	○		◎		PC、ネット、スマホ等々が日常に欠かせなくなり、意識さえしなくなった世界、それはどのような世界で我々にどんな恩恵をもたらし、どのような不幸をもたらすのか。 IT化、グローバル化によって、 1.多くの受講生である先進国日本の「若者」をどのような状況に置かれているのか、資料・映像を使い、事例を交えながら紹介していきます。 2.なぜ、これまで強者・マジョリティーの立場にあった者が弱者・マイノリティーに転落してしまうのか、 「自由」と「平等」、「国家」、「共同体」の議論を踏まえながら「共生」について考えていきます。
		共生・臨床社会特殊講義３	3	○		◎		隣国である日本と韓国のあいだでは、古くから交流が盛んであった。とりわけ近年、日本の韓流ブームや韓国での日本旅行ブームなどにより、日常的な交流が活発化している。また、在日コリアンのほか、就労ビザを取得して日本で働く韓国人が5万人を突破し、日本人と韓国人は文字通り「隣人」として暮らしている。その一方で、過去の歴史に起因する問題などによって、両国関係は決して良好とは言えない状況にある。本講義ではまず、現在の日韓関係の歴史的・社会的背景や、「韓流」「日流」と呼ばれる文化現象など、日韓交流の現状についての基本的知識を学ぶ。さらに、その知識を土台として、日本人と韓国人が良き「隣人」として暮らしてゆくには、どのようにコミュニケーションしてゆけば良いのか、講師の韓国での体験談を交えつつ、受講生の皆さんとともに考えたい。
		共生・臨床社会特殊講義４	3	○		◎		現代社会学科の「文化・国際コース」の専攻科目である。授業テーマでとりあげる社会現象・社会問題の構造を深く理解し、それらを自分自身の生活や物の考え方と関連づけて捉える力を養う。
	情報・メディアコース	情報・メディアとコミュニケーション	3				◎	メディアは情報を伝達する手段であり、コミュニケーションにおいて重大な役割を果たしている。他方で、現在ではメディアの在り方が多様化し、情報・メディアに関連したさまざまな課題も指摘されている。本授業では、前半にコミュニケーションに関連したメディアの発展の過程を、後半にそれらメディアの課題についてそれぞれ取り上げる。
		情報社会論	3	○	○		◎	電話やラジオ、テレビからインターネットや携帯電話に至るまで、情報メディアの進化は、経済、社会生活、文化、価値観、そしてコミュニケーションのあり方に大きな変化をもたらしてきた。例えば、1990年代中盤からインターネットや携帯電話が急速に普及したことに伴い、現在、我々の社会のありようが変わりつつある点はよく指摘されるとおりである。講義では、現代の情報通信技術の進展が社会事象や現象とどのように結びつき、社会生活やシステムの変革とどのような相互関係があるのか考察するとともに、情報社会の現状に深く立ち入り、具体的問題の議論・検討を行う。

区分		科目名	履修開始セメスター	1 社会学の基礎的知識を修得したうえで、変転する現代社会におけるさまざまな社会現象や社会問題に対して、自己を見失わず常識にとらわれない柔軟な見方ができる	2 1. グローバル化、多文化化する世界の中で、異なる文化や宗教に対して開かれた態度をとり、地域の課題に対して的確な判断が下せる	3 差別やマイノリティの問題、さまざまな社会問題について幅広い知見を有し、共生社会の実現に寄与する力を備えている	4 現代社会において必要とされる情報リテラシーを身につけ、情報の賢明な受け手としてだけではなく、送り手としてのコミュニケーション能力も有している	科目概要
学科専攻	情報・メディアコース	マスコミ論	3	○			◎	高度情報化社会といわれる今日、マスメディアが送り出す情報は私たちの生活に不可欠なものとなっている。一方で、情報テクノロジー（IT）の進化と普及に伴い放送、新聞、出版、映画、音楽などのマスメディア産業は大きな変革の波にさらされ、マスコミュニケーションのあり方そのものが変わろうとしている。講義では、各メディアの機能と特性、社会における役割、受容ならびに利用状況、問題点、将来展望などを論じる。講義にはマスメディアに関わる実際の事例や時事問題を多く織り交ぜ、日常的な視点からマスメディアを考察する。最初の数回は、マスコミュニケーションを理論的な側面から考える。多数の人々に情報を伝えるコミュニケーションの一形態としてマスコミュニケーションをとらえ、これが社会的にどのような機能を果たしているのか議論する。3回目以降は、テレビ放送、新聞、出版、映画、音楽などの産業別に分け、各業界の概要について基礎データを提示し、それぞれが抱えている課題について考察を行う。
		地域情報論	3				◎	近年、地方創生という言葉が多くのメディアに登場しているが、それ以前にもさまざまな地域において情報化・活性化の取り組みはなされてきた。本授業では、そうした過去の地域情報化・活性化に関する事例を紹介し、その成功・失敗の要因や課題について検討する。また、そこから得られる教訓をどのように京都に適用することができるかについて授業を通して考えてみる。
		広告・広報論	3	○			◎	情報化社会において、情報に溺れることなく、自ら主人公であるためには、戦略的かつ自発的に、情報を扱うすべをしることが重要である。 広告・広報を通じて、価値ある情報をどのように創造していくかのプロセスを習得する。具体的なケーススタデイを見せながら臨場感ある実践的な講義を展開していく。
		メディア・リテラシー	3				◎	本科目では、現代社会が抱えている様々なメディア関連の問題とそのあり方を批判的に読み取るとともに、より建設的な未来志向の社会を作るための個人としての役割と知識を養うことを目指す。本科目の具体的な内容は日々のメディアと日常との関係から見えてくる事例をランダムに取り上げながら問題点と意見を自由に討論する形式で運営する。デジタル化の普及やメディア環境が今後も持続的に多様化しつつ変化していくと見込まれているので、関心のある学生は積極的に履修・参加しながら実用的な知を身につけてほしいと考える。
		デジタル・メディア論	3				◎	本講義ではマルチメディアの処理技術からコンピュータ、インターネット、Webを通してビジネスやセキュリティ、知的財産権に関するテーマを扱う。マルチメディアが関与する領域は幅広いため、体系的に学ぶことで相互の関連についてより深い理解を得ることができる。
		メディア文化論	3	○	○		◎	時としてマスメディア（大衆媒体）は、社会集団で共有される価値観や文化の創造という役割を果たす。実際にマスメディアが発信源となり、世間に広まる流行・風俗も多い。本講義ではメディアと深く関わるマンガやアニメ、アイドルに代表されるポップカルチャー（大衆文化）がなぜ人々の心を捉え、ある時代状況下で社会に受容されるようになったのか、1970年代以降の具体的な事例を通して考察する。また、オタクと呼ばれる人々の行動にも注目し、彼・彼女らのサブカルチャー消費を通してオタク文化を検討する。さらに日本のポップカルチャーやサブカルチャーが国境を超え、世界中の多くの人々に認知・受容されるという、いわゆる「クールジャパン」と呼ばれる現象も講義の中で必要に応じて議論し、その国際的な影響力と将来性を検討する。
		情報通信ネットワーク論	3				◎	狼煙、伝書鳩、駅制等を経てきた情報通信の歴史は、年月を重ねながらコンピュータを介した情報通信ネットワークに変化してきている。今やユビキタス・ネットワーク（いつ、どこにいても情報通信サービスを利用できる遍在的ネットワーク）の時代へと発展しつつあり、経済・社会インフラの一つとして機能している。これゆえ、情報通信ネットワークの仕組みを理解する事は、急速に発展し続ける情報ネットワーク社会に対応するために必要不可欠なものであり、今後のネットワーク社会に対する先見性を養うためにも重要な事である。本科目では、ネットワークを構成する回線やTCP/IPに代表される通信プロトコル等、ハード面とソフト面からネットワークシステムを総合的に解説する。

区分		科目名	履修開始セメスター	1 社会学の基礎的知識を修得したうえで、変転する現代社会におけるさまざまな社会現象や社会問題に対して、自己を見失わず常識にとらわれない柔軟な見方ができる	2 1. グローバル化、多文化化する世界の中で、異なる文化や宗教に対して開かれた態度をとり、地域の課題に対して的確な判断が下せる	3 差別やマイノリティの問題、さまざまな社会問題について幅広い知見を有し、共生社会の実現に寄与する力を備えている	4 現代社会において必要とされる情報リテラシーを身につけ、情報の賢明な受け手としてだけではなく、送り手としてのコミュニケーション能力も有している	科目概要
学科専攻	情報・メディアコース	情報システム論	3				◎	コンピュータが出現する以前には、情報をやり取りする、あるいは情報を蓄える仕組みは、主に言葉、紙をベースにしたシステムであったが、コンピュータの登場によって、それを主とする情報システムに変化した。本講義では、情報システムの歴史をたどりながら、現在までの変遷を解説すると共に、個人のレベルでの情報システム（紙に記載する、コンピュータに記録する等）や企業における情報システム（EDPS→MIS→・・・）について紹介する。加えて、現在では当たり前となっている情報通信ネットワークを用いた情報システムも取り上げる。情報システムの変遷は、コンピュータにおける処理形態の変化に密接に関わっているため、処理形態（バッチ処理やオンライン処理等）の変化についても言及して、情報システムの変遷を包括的に解説する。
		情報･メディア特殊講義１	3	○			◎	現代社会学科の「情報・メディアコース」の専攻科目である。授業テーマに応じて、情報社会におけるコミュニケーションのあり方を社会学的に考える。そしてそれを通じて、現代社会において必要とされる広い意味での情報リテラシーを養う。
		情報･メディア特殊講義２	3	○			◎	噂話という他愛もないものがあります。噂話は多数の人間に共有されると社会的に意味を持ちます。この授業では噂話の意味から初めて、世論の形成について古典的な議論を考えます。その上で、社会調査についてその方法論ではなく、社会調査がどのような意味を持っているのか、発信者が社会調査のデータに与える影響はどのようなものがあるのかについて考えてみたいと思います。
		情報・メディア特殊講義３	3	○			◎	現代社会学科の「情報・メディアコース」の専攻科目である。授業テーマに応じて、情報社会におけるコミュニケーションのあり方を社会学的に考える。そしてそれを通じて、現代社会において必要とされる広い意味での情報リテラシーを養う。
		情報・メディア特殊講義４	3	○			◎	現代社会学科の「情報・メディアコース」の専攻科目である。授業テーマに応じて、情報社会におけるコミュニケーションのあり方を社会学的に考える。そしてそれを通じて、現代社会において必要とされる広い意味での情報リテラシーを養う。
		情報・メディア実習１	3				◎	映像作品の企画・撮影・編集についての基礎を学ぶ。受講生はグループで作品制作を行うことで、動画コンテンツの編集・表現にかかわる基本的な力をつける。
		情報・メディア実習２	4				◎	グループで協力して、企画・構成・シナリオ執筆・調査・撮影・編集等を行い、映像作品の制作を行う。作品制作を通じて、社会的な課題を扱う映像作品の制作に必要な力をつける。
関連		日本史概論	1	○				大学で学ぶ歴史学はこれまでの歴史の学習とは大きく異なるだけでなく、現在持っている歴史の知識も、これから始まる専門的な学修を考えた時に、決して十分とはいえない。この講義では、歴史学の基本的な考え方・方法に基づき、担当教員が日本史の各時代を理解するうえで重要と考えた事象を取り上げ講義する。講義の内容を理解するなかで、今後の専門的な学修に際して基礎となる日本史の知識を習得するとともに、学問としての歴史学の基本的な考え方や方法を理解する。
		東洋史概論	1	○				本講義では、東洋の歴史、とりわけ中国の歴史について、古代から近代まで大まかな流れに沿って学修する。中国は、古代から近代にいたるまで、日本の歴史と深いかかわりを持ってきたが、その歴史や、培われてきた社会・文化は、日本とまったく異なる。中国における王朝ごとの基礎的な歴史用語の解説を進めながら、その王朝の歴史や文化の特徴を学ぶ。また王朝の移り変わりを理解し、中国史の概略を学び、歴史の多様性を学修する。
		西洋史概論	1	○	△			グローバルな関係性が張り巡らされた現代社会のなかで、西洋文明の理解は日本人にとって不可欠である。本講義では、その中核をなすヨーロッパ文明について、その形成期に重点をおきながら通時的に歴史を概観する。そうすることで、そこに生きた人びとの文化やものの考え方の特徴を学ぶ。加えて、講義中に紹介される史料の解説を通して、各時代と社会の具体的なイメージをつかみ、他者たるヨーロッパに対する理解を深める。

区分	科目名	履修開始セメスター	1 社会学の基礎的知識を修得したうえで、変転する現代社会におけるさまざまな社会現象や社会問題に対して、自己を見失わず常識にとらわれない柔軟な見方ができる	2 1. グローバル化、多文化化する世界の中で、異なる文化や宗教に対して開かれた態度をとり、地域の課題に対して的確な判断が下せる	3 差別やマイノリティの問題、さまざまな社会問題について幅広い知見を有し、共生社会の実現に寄与する力を備えている	4 現代社会において必要とされる情報リテラシーを身につけ、情報の賢明な受け手としてだけではなく、送り手としてのコミュニケーション能力も有している	科目概要
関連	日本史特論	2	○				日本史概論の学修を通じて日本史各時代の最低限の知識を身につけ、歴史学（日本史学）の基本的な考え方・方法の一端に触れた。本科目では、もう少し専門的な内容に踏み込み講義する。時代によって取り上げる問題や内容は異なるが、日本史の各時代を理解するうえで基礎となる重要事項であることに変わりはない。講義の内容を理解し知識を広めることに加え、専門課程での学修を見据え、複数の事項を関連づけたり、背景を考えたりするなどして、歴史学の考え方や方法の基本となる思考に触れてみて欲しい。
	人文地理学1	3		○			人文地理学とは、日本・世界の各地域で展開されている人間の諸活動を論理的に考察する地理学の一分野である。この講義では、私たちが生活している現在の日本・世界の諸地域とそこに住む人々の社会、生活や生産活動の特徴を地理学的に理解するために、分布、移動や生産、流通、消費、さらに地域構造といった事象に焦点を当てて学んでいく。
	人文地理学2	4		○			人文地理学とは、日本・世界の各地域で展開されている人間の諸活動を論理的に考察する地理学の一分野である。この講義では、私たちが生活している現在の日本・世界の諸地域とそこに住む人々の社会、生活や生産活動の特徴を地理学的に理解するために、場所に関わる宗教、生業、文化、あるいは空間上に現れる社会的差異といった事象に焦点を当てて学んでいく。
	自然地理学 1	3		○			自然地理学とは、地球上の自然環境を構成する諸要素を総合的・有機的に捉える地理学の一分野である。この講義では、日本や世界各地の地形、気候、水文、植生、土壌等に関わる自然地理学の基礎知識を正しく理解し、地球上の自然環境を総合的・有機的に説明する能力の獲得を目指す。
	自然地理学 2	4		○			自然地理学とは、地球上の自然環境を構成する諸要素を総合的・有機的に捉える地理学の一分野であるが、環境の要素には人間もまた含まれる。この講義では、防災や持続可能社会などといった環境との関わりで人間が直面する問題を通じて、日本や世界各地の自然環境と人間との相互作用的関係を理解し、説明する能力の獲得を目指す。
	地誌学1	3			○	△	地誌学とは、自然現象（地形・気候・水文など）と人文現象（都市・経済・歴史・交通など）の相互関係を総合的に考察し、地域的性質をとらえる地理学の一分野である。この講義では、様々な地理学の議論を導きに、日本や世界各地の自然と文化の相互作用について学ぶことで、グローバル化する現代世界でそれぞれの地域を単純化することなく理解する能力を身につける。
	地誌学2	4		○			地誌学とは、自然現象（地形・気候・水文など）と人文現象（都市・経済・歴史・交通など）の相互関係を総合的に考察し、地域的性質をとらえる地理学の一分野である。この講義ではある地域の特徴を自然環境、歴史、文化、政治、経済など様々な観点から総合的に理解した上で、現在の世界的な課題や国際情勢に中に適切に位置付ける視点の獲得を目指す。
	社会学概論	1	○				多様な形で現象する現代社会の出来事を疑い、捉え直し、社会学とは何か、何が出来るかを考える。 講義では、社会学における歴史的展開を概観し、いくつかの社会学の領域をとりあげて、具体的な現象を検討しながら人間関係や世の中のしくみを読み解いていく。
	法律学概論 1	1	○				人が集まり、社会と言う集団が作られるとき、そこにはルールが発生し、それが「法」と呼ばれるようになる。この授業では、私たちの生活に対するルールとして機能する基本的な「法」を紹介する。その上で、現行法制度の紹介にとどまらず、その限界事例での法的な考え方について解説したい。
	法律学概論 2	2	○				人が集まり、社会と言う集団が作られるとき、そこにはルールが発生し、「法」と呼ばれるようになる。そうした「法」により規律される空間においても限界事例が生じる。このような限界事例において、憲法上の権利がどのように機能しうるのか、という点について取り扱う。もっとも、授業時間の制約上、すべてを網羅的に取り扱うことはできないが、できるだけ身近な問題を取り上げながら授業を進める予定である。

区分	科目名	履修開始セメスター	1 社会学の基礎的知識を修得したうえで、変転する現代社会におけるさまざまな社会現象や社会問題に対して、自己を見失わず常識にとらわれない柔軟な見方ができる	2 1. グローバル化、多文化化する世界の中で、異なる文化や宗教に対して開かれた態度をとり、地域の課題に対して的確な判断が下せる	3 差別やマイノリティの問題、さまざまな社会問題について幅広い知見を有し、共生社会の実現に寄与する力を備えている	4 現代社会において必要とされる情報リテラシーを身につけ、情報の賢明な受け手としてだけではなく、送り手としてのコミュニケーション能力も有している	科目概要
関連	倫理学概論	1	○	△			西洋では多様な倫理思想が生まれたが、ここでは19世紀、デンマークの哲学者、キェルケゴールの思想を分析する。キリスト教神学や近代哲学がどのように彼の思想に関連するかを考察しながら、現代におけるその有効性を問うてみたい。①倫理学とはなにか②キェルケゴールの生涯と著作③道徳哲学者としてのキェルケゴール④近代哲学のなかでの位置づけ。
	哲学概論	2	○				哲学は一見、抽象的な議論のつらなりであるが、議論は日常の経験に根ざしている。哲学の主要な議論を生活空間のなかから理解していくことがこの講義の目的である。20世紀の現象学や解釈学の立場を軸としながら進みたい。①哲学と日常性②物との関わり③人間と空間④歴史と風土
	宗教学概論	1	○	△			宗教の本質については様々な見解が見られるが、これらを紹介しながら分析する。近代哲学はカントによる魂の実体性の否定によって、一つの頂点を迎える。この、キリスト教神学による魂不滅の信仰への痛打が、どう受け止められたかを中心に考察を進めていきたい。①宗教の定義②物との関わり③人間と空間④歴史と風土。
	経済学概論	1	○	△			経済学の基礎理論、歴史をふまえて、日本経済の現状と経済政策を理解する。 授業では、戦後復興から高度経済成長、バブル経済の発生と崩壊に至る日本的経済システムの特徴や、人口減少や高齢化が進む日本の現状を把握する。また、経済のグローバル化の進展と今日的課題を考える。経済とは何か政府や企業の役割といった幅広い領域にかけて、経済全般を見る目を育てていく。
	プロジェクト演習	3	○				この授業の目的は体験型の授業を通して考える力と行動する実践力を身につけることにある。現代社会の問題の解決のために、身近なレベルから問題解決のための切り口を模索しつつ、実際に現地や現場にはいり実践的に取り組むことで、大学と社会との接点を持ちながら「企画力」「実践力」「コミュニケーション力」を学ぶ。
	社会調査法演習１	5	○			△	社会調査士資格に関連する科目である。すでに習得済みの社会調査の基礎知識を前提に、「社会調査法演習１，２」では、より高度な分析手法とその意義を学ぶ。この演習「１」では量的調査法の実習を行い、統計ソフトの操作にも習熟してもらう。最終的には、アンケート調査の集計分析を一人で実施できるようになることを目指す。
	社会調査法演習２	5	○			△	社会調査士資格に関連する科目である。すでに習得済の社会調査の基礎知識を前提に、「社会調査法演習１，２」では、より高度な分析手法とその意義を学ぶ。この演習「２」では質的調査法の社会学的な意義を学び、実際の研究技法や実践の中で活用することを目指す。
	基礎統計学１	3	△			○	社会統計は、記述統計と推定（推測）統計の２種類に大別される。前者は調査の結果得られたデータを要約することであり、後者はその要約に基づいて直接調査していない対象をも含む母集団全体を推定することである。この授業では前者の記述統計の基本的な考え方と方法について学ぶ。一口に記述統計と言っても範囲は広いが、この授業では特に社会学分野で必須となる離散変数の集計法（度数分布表・クロス表・エラボレーションなど）に力点を置いて学んでいく。授業は教科書・板書などによる講義と、電卓やパソコンを用いた実習で構成される。講義では基本となる考え方や概念について学び、実習ではその考え方や概念に基づいて、実際に自分で集計・計算・図表の作成を行う。
	基礎統計学２	4	△			○	社会統計は記述統計と推定（推測）統計の２種類に大別され、前者は調査の結果得られたデータを要約することを指し、後者はその要約に基づいて直接調査していない対象をも含む母集団全体を推定することを指す。この授業では、後者の推定統計の基本的な考え方と方法について学ぶ。一口に推定統計と言っても範囲は広い。この授業では特に社会学分野で必須となる離散変数の集計法（比率の区間推定・χ自乗検定など）に力点を置いて学んでいく。授業は教科書・板書などによる講義と、電卓やパソコンを用いた実習で構成される。講義では基本となる考え方や概念について学び、実習ではその考え方や概念に基づいて、実際に自分で集計・計算・図表作成を行う。
	データ解析演習	6				○	高等学校教諭「情報」の免許取得に関わる科目である。この科目ではデータベースソフトの使い方を学習しつつ、データベースに関する基本的な知識を学ぶとともに、自分でデータベースを構築し、運営するための基礎的な技法を習得することを目指す。

区分	科目名	履修開始セメスター	1 社会学の基礎的知識を修得したうえで、変転する現代社会におけるさまざまな社会現象や社会問題に対して、自己を見失わず常識にとらわれない柔軟な見方ができる	2 1. グローバル化、多文化化する世界の中で、異なる文化や宗教に対して開かれた態度をとり、地域の課題に対して的確な判断が下せる	3 差別やマイノリティの問題、さまざまな社会問題について幅広い知見を有し、共生社会の実現に寄与する力を備えている	4 現代社会において必要とされる情報リテラシーを身につけ、情報の賢明な受け手としてだけではなく、送り手としてのコミュニケーション能力も有している	科目概要
関連	調査研究演習１	5	○			△	社会調査士資格の取得に必要な科目である。調査研究演習１、２、３は、受講生が社会調査の企画、実施、分析を実際に行う授業であるが、この演習１では、社会調査の方法論や倫理的問題を学んだうえで、主に調査の企画を行う。
	調査研究演習２	6	○			△	社会調査士資格の取得に必要な科目である。調査研究演習１、２、３は、受講生が社会調査の企画、実施、分析を実際に行う授業であるが、この演習２では、演習１でたてた企画に基づいて、調査を実施し、収集したデータの分析を行い、調査報告書を作成する。
	調査研究演習３	5	○			△	社会調査士資格の取得に必要な科目である。調査研究演習１、２、３は、受講生が社会調査の企画、実施、分析を実際に行う授業であるが、この演習３では演習１、２を補う授業であり、調査実施の準備、データ分析、報告書作成作業等の個別指導を行う。
	グローカル人材PBL	5	○				PBL（Project-Based Learning）型の授業を行う。受講者は指定されたプロジェクトに参加し、座学からだけでは得られない実践的な経験を積み、その実践によって評価される。
	地域経済論	3		○		△	人口減少時代に突入した日本における地域経済について概説し、いずれ近い将来その担い手となる可能性のある学生諸君に地域経済学の基礎を学んでもらうことを目的とし、日本の都市や地域が抱えるさまざまな課題に触れ、解決策を模索する。
	NPO法人マネジメント論	3		△	○	△	公共政策の一翼を担うNPO（非営利組織）の活動とあるべきマネジメントを理解してもらい、卒業後にさまざまな地域で政府や企業の手の度届かない課題の解決に尽力できる人材となる第一歩を踏み出してもらうことを目的とし、NPO（非営利組織）とは何か、企業との違い、そのあるべきマネジメントを認識し、今なぜそれが求められているのかを理解し、具体的な活動とその課題について入門レベルで講義する。
	中小企業論	3	○				日本に限らず、企業の９９％はいわゆる中小企業であり、中小企業は「普通の企業」といえます。しかし、「普通」であるがゆえに、看過されているともいえます。中小企業を考えることで、経済や社会に対する視野を広げていきましょう。
	女性史	3	△		○		各階層の女性が担ってきた歴史的な役割変化を概観した後で、現代女性の職業や家族生活の変遷を学ぶ。さらに、今日では男女を問わず、若年層・高齢層に広範な貧困化がみられることを考察しながら、女性生活者としての課題とその解決策を考える。
	現代社会と女性	3	△	△	○		近年の個人化やリスク化の進行により、これまで当たり前と思われてきたライフコースが実現しにくくなってきている。本講義では、ライフコースとは何かを把握したうえで、ライフコースの時代的な変化とその背景にある社会的要因ついて理解を深める。また、ライフコースにおける就労や生活のあり方について取り上げ、「生活の質」との関連から再検討を行う。
	情報産業と職業	3				○	情報産業に該当する産業は多岐に亘るが、特にインターネットの普及後には、多くの産業が情報産業に何らかのかたちで関わるようになったと言っても過言ではない。本授業では、そのような日本の産業の「コア」とも言える情報産業の構造を概観し、その歴史や課題についても検討する。
	情報メディアと社会	3	△			○	インターネットを含め、各種メディアによって伝えられる情報の価値を、どう見分けるかは現代人の大きな課題である。情報メディアが我々の社会生活に及ぼす影響を多角的に考えることにより、日々生起する社会事象を判断する視座を養う。
	ジャーナリズム論	3	○				本科目では、21世紀のグローバル化とデジタル化の現代社会における公共的な情報のあり方と人々による情報の共有や消費をめぐって見受けられている根本的な変化を射程に入れながら、「ジャーナリズムとは何か」という概念的な内容の講義ではなく、「ジャーナリズムはなぜ必要なのか」という問題について日常のメディア生活から取り上げたテーマを中心にクリティカルに討論しながら考えます。したがって本科目のテキストは日本の社会とメディアとの問題を中心的なテーマとして取り上げた文献や論文を対象とします。なお、本科目の授業のスタイルは履修者参加型で運営する方針です。

区分	科目名	履修開始セメスター	1 社会学の基礎的知識を修得したうえで、変転する現代社会におけるさまざまな社会現象や社会問題に対して、自己を見失わず常識にとらわれない柔軟な見方ができる	2 1. グローバル化、多文化化する世界の中で、異なる文化や宗教に対して開かれた態度をとり、地域の課題に対して的確な判断が下せる	3 差別やマイノリティの問題、さまざまな社会問題について幅広い知見を有し、共生社会の実現に寄与する力を備えている	4 現代社会において必要とされる情報リテラシーを身につけ、情報の賢明な受け手としてだけではなく、送り手としてのコミュニケーション能力も有している	科目概要
関連	放送論	3	△			○	サービス開始以来60年が経過し、すでに我々の日常生活の一部となっているテレビ放送だが、デジタル化、多チャンネル化、グローバル化、インターネットとの融合など、それを取り巻く状況は大きな変貌を遂げつつある。一方で、やらせ演出や過度のポピュリズムなどといった問題が表出する中、テレビ放送はかつてないほど厳しい視聴者の批判の目に晒されている。本講義ではテレビ放送の構造と問題点を考察するとともに、将来的な展望を議論する。
	情報システム実習	5				○	高等学校教諭「情報」の免許取得に必要な科目である。本来，情報システムとは情報の蓄積，加工，伝達の仕組みを指すが，現在ではコンピュータシステムの事を情報システムと解釈する事が多い。本科目では基本的なプログラミング言語を用いてプログラムを作成し，コンピュータ処理システムの製作を行う。
	情報ビジネス	5				○	高等学校教諭「情報」の免許取得に必要な科目である。本科目は、情報ビジネスに関わる授業テーマを設定し、その仕組みや歴史を考えることで、これからのメディア環境を生きるための力を養うことを目指す。
	情報犯罪論	3	△			○	ネットワーク化されたコンピュータが身の回りに散在する「ユビキタス社会」の到来によりもたらされた危険性は、利便性の影に隠れ、取りざたされることは少ない。しかし、現実には、「ユビキタス社会」の到来以前から「情報」を巡り様々な操作が行われ、「情報」犯罪が行われてきており、「情報」を操ろうとする者達にとっては、ネットワークされたコンピュータは、まさしく格好の道具である。「情報」とその道具の本質を探りながら、同時に、物理社会とのリンクを意識しながら、講義や発表、議論の中で、我々の「情報生活」のセキュリティを、ひいては我々の「安心・安全」を考えていく。
	情報通信ネットワーク実習	5				○	高等学校教諭「情報」の免許取得に必要な科目である。インターネットについての基礎的な知識を身につけ、ネットリテラシーについて考察する。実際にHTMLを書きWebページの作成を行い、ネット上にどの様なサービスがあるのか、それをどう活かしていくのかを実践する。
	コンピュータ論	1				○	現代を象徴するユビキタス社会の中で、様々に形を変えながら中心的な役割を果たしているコンピュータについて、その基本的な仕組み、役割などを基本から解説していく。
	京都の産業	3	○				京都の産業、企業がどのような課題に直面し、解決しようとしているのかを考える。授業の進め方は、アクティブラーニングの方法を採用し、グループワークによって内容を把握し、理解を深める。
	国際政治学	1	○				国際社会における国家の政策や安全保障などの国際政治の歴史を踏まえ、国際政治学の概念や理論を学ぶ。また、これらを踏まえた現代の国際問題を考察する。
	日本仏教史（仏教伝来～平安）	1	○	△			仏教の伝来より平安時代末までの仏教の歴史や思想展開について講義していく。 ①仏教伝来、②飛鳥時代、③奈良時代、④平安時代初期、⑤平安時代中期、⑥平安時代末期、について概説する。
	日本仏教史（鎌倉以降）	2	○				鎌倉時代以降の仏教の歴史や思想展開について講義していく。　①鎌倉時代　②室町時代　③江戸時代　④明治以降、について概説する。
	中国仏教史	1	○				仏教が中国に伝来して、中国人社会にどのように受容・展開されていったのかを概説していく。①後漢・三国　②両晋　③南北朝　④隋・唐　⑤五代・宋　⑥元・明・清　⑦現代、について概説する。